

教育の多様化・個性化政策の実践方略としての学校文化改善

—米国ジョージア州のチャーター・スクール2校の事例—

添田晴雄

はじめに

学校教育を改善するための一般的な方法には、ふたつの伝統的方略がある。

第1は、法律を定めたり、学習指導要領のような明確な基準を示したりする方略である。中央集権的に教育制度が発達してきた日本において、この方略は当たり前のことであったし、かつては機能を果たしてきた。一方、地方分権的に教育制度を発達させてきたイギリスも、1988年法に見られるようにその方略を転換させ、ナショナル・カリキュラムを策定した。日本の学習指導要領に比較すれば、はるかにゆるやかであるものの、学校教育の改善を教育基準の提示によって全国的に推進しようとする試みである。アメリカにおいても、「危機に立つ国家」が公表された80年代から、教育改革のためのさまざまな提言がなされ、法律の改正や教育基準（Standards）の提示がなされてきた。

第2の方略は、示された基準が着実に実践されているか否かを吟味することにより、教育実践の質を確保しようとする方略である。イギリスやアメリカで実施されている標準テストの実施とその結果の公表がその例である。アカウンタビリティという概念が提示され、納税者や保護者に対して、成果を説明しなければならない仕組みを作ることによって、学校教育改善が図られた。

このふたつの方略は非常に重要である。しかしながら、実際に教室の中でどのような学習指導がなされているのかに注目して、学習指導そのものを改善していかなければ、学校教育改革政策は機能しない。このことを、J.スティグラーらは、その著書 *The Teaching Gap: Best Ideas from the World's Teachers for Improving Education in the Classroom*, James W. Stigler & James Hiebert, The Free Press, 1999 で指摘している (p.2)。また、スティグラーは、その学習指導方法の改善も、学校が無意識的に持っている「文化的な営み」に留意しなければ、効力を持ち得ないことを指摘し (p.85)、日本の学校文化に根ざした「校内研修」に学ぶことの重要性を主張している (p.110)。

教育の多様化・個性化政策を考察する際、原理、方針、法律、基準などの目標設定、財政的裏づけ、評価方法等のいわゆる制度的側面に注目することは、極めて重要なことであり、不可欠でもある。しかし、これらは、実際に改革がなされるべき学校教育の側から見れば、いわば入口と出口の制御による改革である。本研究では、その入口と出口の間にあ

るもの、すなわち実際の学校現場の中で、教育の多様化・個性化政策がいかに関心されているのかについて、アメリカ班^(※)の第2次調査で得られた情報をもとに、学校文化の改善の視点から分析する。アメリカ班第2次調査では、タイプの異なる3つの学校、すなわち、(1) 地域が提供した校舎を利用して Edison Schools という企業と提携している Charles R. Drew Charter School、(2) マーケット内の施設を校舎に転用しながら理数系の優秀な生徒を教育しようとしている The Fulton County Charter High School for Mathematics and Science、(3) 3つの高校と1つの工業大学から学生を受け入れて職業訓練に結びつけた学習を強調する Central Educational Center、といった3校を視察したが、本稿では、前2校を扱い、Central Educational Center については、別の機会に取り上げることとする。また、本稿は、中間報告であるので、聞き取り調査で得られた情報をできるだけ忠実に記載するにとどめ、詳細の考察は最終報告等を行うこととする。

※アメリカ班の第1次調査は藤田晃之筑波大学助教授によって、2001年1月27日～2月9日に実施され、第2次調査は江原武一京都大学教授と添田晴雄大阪市立大学助教授によって、2002年11月10日～20日に実施された。

第1章 チャールズ R.ドゥルー・チャーター・スクールにおける聞き取り調査

1. 調査の概要

Charles R. Drew Charter School を2002年11月14日(木) 午前8時30分から午後4時の間、江原武一京都大学教授と共に訪問した。Karen M. Eldridge 校長、Derrick B. Lockwood 副校長への聞き取り調査の後、生徒の案内で校舎内および隣接のYMCA施設を見学した。校舎内では授業中の教室に数多く入らせていただいたほか、10人を超える教師にインタビューをする機会を得た。午後3時から3時45分には、教員の研修会の場を見学させていただいた。

2. チャールズ R.ドゥルー・チャーター・スクールの概要

チャールズ R.ドゥルー・チャーター・スクール (Charles R. Drew Charter School、以下、「ドゥルー・スクール」または「本校」と略)は、アトランタで最初に設立されたチャーター・スクールである。いわゆるスタート・アップ (新設型) チャーター・スクールである。本校は、イースト・レイク地区の有志の保護者、イースト・レイク・コミュニティ財団、アトランタ公立学校区 (Atlanta Public Schools) の代表者が協力して、2000年8月に創立された。当初の在籍児童は幼稚園から5年生までの240人であったが、2001年8月には、幼稚園から6年生までの620人に拡張された。現在は、幼稚園から7年生までの

700 人の児童が在籍しているが、2003 年 8 月には幼稚園から 8 年生までの 800 人の規模に拡張される予定である。児童の 99%がアフリカ系アメリカ人で、残りが多民族、白人、ヒスパニック系である。児童の約 80%が給食費全額免除または減額免除の対象となっている。

本校は、「アカデミー」と呼ばれる小規模で融通性のある複数の学校内学校により構成されている。幼稚園から第 2 学年は、プライマリー・アカデミー、第 3 学年から第 5 学年がエレメンタリー・アカデミー、第 6 学年と第 7 学年がジュニア・アカデミーである。さらにアカデミー内では、多学年からなるハウスが設置され、それぞれのハウスでは 6~8 名の教師が指導にあたる（図表 1 参照）。たとえば、プライマリー・アカデミーには、House of Madam C.J. Walker と House of Mae Jemison のふたつのハウスがあり、それぞれのハウスが幼稚園から第 2 学年の 3 学年で構成されている。1 ハウスのそれぞれの学年は 2 学級編成であり、それぞれ学級担任がついている。幼稚園学級には、補助教員がひとりずつ担当されている。また、ジュニア・アカデミー（JA）には、ひとつのハウスしかなく、第 6~7 学年を 8 人の教師が指導している。

学級の呼称は担任の姓を用いて、たとえば、Lackley 学級のように呼んでいる。ハウスの名称は、児童生徒集団を指すが、ハウス所属の教師集団を指す場合もある。特別科目（Specials）（世界語〔本校ではスペイン語〕、音楽、美術、体育、ドラマ、ダンス）の担当教員集団は、WHAMD（World Language, Health & Physical Education, Art, Music, Drama & Dance の頭文字）というハウス名で呼ばれており、特殊教育担当の教員集団はエジソン・スクールズ社のプログラム名にちなんで、スペシャル・エジソンというハウス名で呼ばれている。

特別科目の教師は、通常のハウスの学年区切りとは別に、K-3 と 4-7 に分かれて担当している。体育担当教員は、隣接する YMCA のインストラクターや隣接ゴルフ・コースのプロのゴルフ選手たちと分担しながら、全学年の体育を担当している。

図表 1 アカデミー、ハウス、学級構成と教職員

プライマリー・アカデミー	House of Madame C.J. Walker	
	幼稚園	Terese Lackley LaRissa Williams（補助教員）
	幼稚園	Lyvelle Simms Sonora Porter-Cost
	第 1 学年	LaShawn Williams
	第 1 学年	LeTosha McDay
	第 2 学年	Colleen Bibby
	第 2 学年	Cherea Foreman（ハウス主任）
	House of Mae Jemison	
	幼稚園	Dawn Miles Eleanor Daniel
	幼稚園	Shefau Dabre-Rufus

		Keisha Jones
	第1学年	Sherique Smith (ハウス主任)
	第1学年	Bernadette Fox
	第2学年	Dameron Anderson
	第2学年	Marc Hood

エレメンタリー・アカデミー	House of Harris	
	第3学年	Terrence Rogers
	第3学年	Amzie Samuels (ハウス主任) (算数カリキュラム・コーディネータ)
	第4学年	Devin Ayers
	第4学年	Regina Willingham (ライティング・カリキュラム・コーディネータ) (リクルートメント・コーディネータ)
	第5学年	Rodney Thomas
	第5学年	Tom Pomeroy
	House of Banneker	
	第3学年	Brittany Rasmussen
	第3学年	Eddie Johnson
	第4学年	Michaelangelo Calhoun (理科カリキュラム・コーディネータ)
	第4学年	Keith Jackson (ハウス主任)
第5学年	Kristal Screven (リーディング・カリキュラム・コーディネータ)	
第5学年	Billetris Secka (算数カリキュラム・コーディネータ)	
	第5学年	Jodi Donkin (リーディング・カリキュラム・コーディネータ)

ジュニア・アカデミー	House of Latimer	
	第6/7学年	Terrell Walker (ハウス主任)
	第6/7学年	Andrea Scott
	第6/7学年	Ernel Dawkins
	第6/7学年	Angela Moore-Thorpe
	第6/7学年	Dallas Bauer
	第6/7学年	Kendrick Monroe
	第6/7学年	Robert Waller (社会科カリキュラム・コーディネータ)
	第6/7学年	Kyia Halloway

特別科目 (WHAMD)		
世界語 (スペイン語) (K-3)		Kiedi Jamison
世界語 (スペイン語) (4-7)		Kim Carter Dial
音楽 (K-3)		Laura Fisher
音楽 (4-7)		Jim Carter
美術 (K-3)		Natalie Brandhorst
美術 (4-7)		Tracey Hill (ハウス主任)
体育 (K-7)		Sebastian Crawl (YMCA、ゴルフは別スタッフ)
ドラマ (4-7)		Tracey Copeland
ダンス (K-3)		Heather Pace

スペシャル・エジソン		
		Kelly Waters (特殊教育コーディネータ)
		Mecca Handy
		Eurith Bowen (リクルートメント・コーディネータ)
		Tonya Thompson
		Laetitia Burdett-Ross (補助教員)
		Kelley Bronsink (言語指導)

読書指導		
		Charles Dawson (オートスキル・チューター)

Edith Whitaker (チューター)
Keta Miliner (チューター・リーダー)
Angie Smith (チューター)
Zack Thompson (チューター)
Jodi Donkin (オートスキル・チューター)
Courtney McDonald (読書室ホスト)
Erin Sikes (読書室ホスト)

技術職員
Starr Zalanka (学校テクノロジー・マネージャー)
Sydney Buchanan (ユーザー・サポート・技術員)
Felicia Coletti (図書館/メディア専門員)
Antres Mitchell (メディア/テクノロジー・コーディネータ)

支援/管理職員
Darren Wallace (児童生徒支援マネージャー)
Monique Spaulding (児童生徒支援マネージャー)
Shahida Salaam (常勤補欠教員)
Caroline Wood (ビジネス・サービス)
Tim Branch (設備)
Cynthia Shareef (秘書)
Theresa Cartwright (秘書)
Kaye Graves (養護)
LaTisha Vaughn (学力向上コーディネータ)
Maria Armstrong (放課後学習プログラム・コーディネータ)
Derrick Lockwood (副校長)
Karen Eldrige (校長)

本校の校是は学力向上である。ドゥルー校の特徴は、エジソン・スクールズ社 (Edison Schools, Inc) との提携にある。提携の一環として次のような特徴をもつ。すなわち、1日の学校時間を延長し(午前8時から午後4時)、1年間の登校日数を延長している(児童生徒は195日、来年には200日になる予定)、リーディングと算数を重視している、ITによる支援プログラムがカリキュラム全体にわたって浸透している、放課後学習プログラムが毎日午後4時から6時に運営されている、教員の研修が毎日行われている、地域団体のみならず、保護者や家族とともに連携している、などである。1日の学校時間と年間登校日数が多いので、本校の児童生徒は、伝統的な通常の公立学校の児童生徒に比べて37%余計に、教室内で時間を過ごすことになる。つまり、ドゥルー校の幼稚園の児童が8年間本校に通うとすると、伝統的な通常の公立学校の児童生徒に比べて、3.3年ほど余計に教育を受けることになる。IT支援プログラムの一環として、児童は3年生になると家庭で使用するためのデスクトップ・コンピュータが各自1台ずつ配給される。

イースト・レイク・コミュニティ財団は、イースト・レイク地区、とくに元のイースト・レイク・メドウ公設住宅プロジェクトの地域を活性化させるために様々な努力を行っているが、ドゥルー校はその一環として設立された。このため、イースト・レイク地域の子どもは優先的に本校に就学できるが、同時に、アトランタ公立学校の通学地域内に居住している子どもなら誰でも就学することができる。約60%の児童生徒がイースト・レイク地区

から通っている。この中にはイースト・レイク・ブリッジの 200 人の児童生徒が含まれている。なお、イースト・レイク・ブリッジは、イースト・レイク・メドウ公設住宅プロジェクトの後を受け継ぎ、複数の財源で運営されている住宅地である。

ドゥルー校は、イースト・レイク・ファミリーYMCAに隣接している。このYMCAは、本校の体育教育施設としても使用される。さらに、本校はチャーリー・エイツ公設ゴルフコースに囲まれている。イースト・レイク・コミュニティ財団は、プロのゴルフ選手を雇用して、本校の体育の時間に、毎日、生徒の指導にあたらせている。生徒はイースト・レイク・ジュニア・ゴルフ・アカデミーにも参加している。この地域にはシェルタリング・アームズ (Sheltering Arms) の運営する育児センターがあり、ゼロ歳児から 4 歳児の子どもをあずかっている。

【校長：Ms. Karen Eldridge の略歴】

学部はアトランタにある Emory University 卒業。教育学と心理学を専攻。1982 年からアトランタ近郊のディケーター学区で教職につく。6 年生を 3 年間教え、転任後 5-6 年の複式学級、さらに転任後 4 年生を教える。1987 年に元の小学校で校長となる。3 年後、ミドル・スクールの校長となり、2 年間つとめる。同一学区における 18 年間の教職生活のかたわら、1985 年に Emory University の大学院で修士号取得。専攻はミドル・グレードの教育で専門は数学教育。その後、スペシャリスト・ディグリー（修士号と EDD との中間的な学位）を取得。2000 年に教育行政に関わり、数か月後に本校の開設準備を始め、現職となる。カリフォルニア州生まれ。13 歳のときノースカロライナ州チャペル・ヒルに移住、大学時代からアトランタに居住。

3. 校長・副校長への聞き取り調査

(校長)

この学校はアトランタで最初のチャーター・スクールです。地域復興政策の一環として創設されました。それがこの学校の特徴でもあります。この地域一体は荒れすさんでいました。犯罪も多発し、子どもが夜中に寝室で殺されたり、発砲事件があったりしました。そういう意味では、設立経緯が通常の学校と違うと思います。

通常に比べ、本校では学校時間が長く、8 時間です。また、通常の学校よりも年間登校日数が多いです。通常は 180 日ですが、この学校は 195 日です。もし、ある子どもが本校に幼稚園から通い始めて 8 年生まで通うとすると、通常の公立学校に通うよりも約 3 年以上余分に通うこととなります。これは大きな差です。

教員研修 (professional development) のプログラムが毎日の教員の日課に組み込まれています。この表 (図表 2) は、それがどのように実施されているかをまとめたものです。

ある曜日には、学習が進まない子どもについて話し合います。別の曜日にはカリキュラムについて同じ学年の教師の間で議論します。また別の曜日には、ハウスごとに会合を持ちます。

学校全体のことについても話し合いますが、子ども一人一人について、その子の指導をどうすればよいかについて話し合います。チームワークが求められます。教師が一丸となって取り組みます。

学校全体のニューズレターもありますが、ハウスごとにニューズレターを発行しており、時間をかけて制作しています。

また、隔週に特殊教育チームによる研修を行い、隔週に教育テクノロジーの研修をします。

特殊教育は、連邦政府の補助金を受けて実施しており、本校では全児童生徒約 700 人中、約 45 人の子どもがこの連邦補助金を受けています。われわれが例外児童 (children with exceptionalities) と呼んでいる、学習障害を持つ子、行動障害を持つ子、かつては精神遅滞と呼んでいた軽度相互交渉障害 (mild interactional disability) を持つ子、自動車事故による脳組織損傷を持つ子、などさまざまな児童生徒が在籍しています。これらの児童生徒をインクルージョンと呼ばれているモデルで教えています。統合教育です。彼らはほとんどの時間を通常のクラスで過ごして教育を受けるのです。

また、教育テクノロジーについては、次のような背景があります。教師は全員ノートパソコンを持っています。教室にはすべてコンピュータが備えられています。また、3 年生以上の児童生徒全員の家庭には、学校がデスクトップ・コンピュータを配布しています。このようなテクノロジーを孤立して教えるのではなく、すべての学習指導に溶け込ませることが期待されています。この理由から、テクノロジー・チームを組織しており、彼らが隔週、研修の時間に教師を指導するのです。

図表 2 が教師の校内研修の予定表です。このように 1 週間の研修が進みます。それぞれの教師集団には、チーム・リーダーと呼ばれているリーダーの教師がいます。ハウス主年です。このリーダーが研修の論題を決めたり、進行したりします。これが他の学校と非常に違うところです。

このような校内研修が可能なのは、1 日の学校時間が他の学校に比べて長いことにあります。本校では午前 8 時に始まり、午後 4 時に終わります。学校時間が 8 時間あれば、このような研修をはめ込むことができます。

図表 2 校内研修のスケジュール

Professional Development Schedule

GRADE LEVEL	STUDENT CONCERNS	CURRICULUM	HOUSE DEVELOPMENT	TEAMWORK	SPECIAL ED & TECHNOLOGY	TIME	ROOM	TEAM LEADER	HOUSE NAME
K-2	Monday	Wednesday	Tuesday	Friday	Thursday	10:10-10:55	122	Foreman	Walker
K-2	Tuesday	Wednesday	Monday	Friday	Thursday	1:15-2:00	123	Smith	Mae Jemison
3-5	Wednesday	Tuesday	Monday	Friday	Thursday	11:55-12:40	222	Samuels	Harris
3-5	Thursday	Tuesday	Monday	Friday	Wednesday	3:00-3:45	206	Jackson	Banneker
JA	Tuesday	Monday	Friday	Thursday	Wednesday	10:07-10:57	153	Walker	Latimer
K-7	Thursday	Tuesday	Monday	Friday	Wednesday	8:25-9:10	230	Hill	WHAMD
			Thursday	Tuesday		7:30-8:15	137	Waters	Special Edison

図表 3 特別科目時間割 (幼稚園～第3学年)

Drew Charter School Specials Schedule as of 8/12/02					
	K-3 Music Fisher	K-3 WL Jamison	K-3 K-3 Art Brandhorst	K-3 Dance Pace	K-3 PE Crawl/Y/Golf
7:45-8:25	P PD	P PD	P PD	P PD	P PD
8:25-9:10	HPD	HPD	HPD	HPD	HPD
9:15-9:55	A B K-Simms K-Lackley	A B K-Miles K-Rufus	A B K-Lackley K-Simms	A B K-Rufus Open	A B Open K-Miles
10:10-10:55	A B 1-McDay 1-Williams	A B K-Simms K-Lackley	A B 1-Williams 1-McDay	A B K-Lackley K-Simms	A B 2-Bibby/Fore 2-Fore/Bibby
11:00-11:45	A B 2-Anderson 2-Hood	A B 2-Hood 2-Anderson	A B 2-Foreman 2-Bibby	A B 2-Bibby 2-Foreman	A B Open* Open*
11:55-12:40	A B Open 3-Rasmussen	A B 3-Johnson Open	A B 3-Rogers 3-Samuels	A B 3-Samuels 3-Rogers	A B 3-Rasmussen 3-Johnson
12:40-1:10	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch
1:15-2:00	A B K-Rufus K-Miles	A B 1-Smith 1-Fox	A B 1-Fox K-Rufus	A B K-Miles 1-Smith	A B 2-Anderson/Hood 2Hood/Anderson
2:05-2:50	A B 1-Smith 1-Fox	A B 1-Williams 1-McDay	A B Open 1-Smith	A B 1-Fox 1-Williams	A B 1-McDay Open*
3:00-3:45	A B 3-Rogers 3-Samuels	A B 3-Samuels 3-Rogers	A B 3-Rasmussen 3-Johnson	A B 3-Johnson 3-Rasmussen	A B Open* Open*
3:45-4:15	Assist with dismissal	Assist with dismissal	Assist with dismissal	Assist with dismissal	Assist with dismissal
					*Refer to 4th-7th schedule for classes scheduled during this time for PE teachers.

図表 4 特別科目時間割 (第 4 学年～第 7 学年)

		Drew Charter School Specials Schedule as of 8/12/02				
	4th-7th	4th-7th	4th-7th	4th-7th	4th-7th	4th-7th
	Music	WL	Art	Drama	PE	
	J. Carter	K. Carter	Hill	Copeland	Crawl/Y/Golf	
7:45-8:25	P PD	P PD	P PD	P PD	P PD	
8:25-9:10	H PD	H PD	H PD	Wilson Reading	H PD	
9:15-9:55	A B Open Open	A B Open Open	A B Open Open	Wilson Reading	A B Open Open	
10:07-10:57	A B 6-M-Thorpe 7-Scott	A B 6-Walker 6-Dawkins	A B 6-Dawkins 6-Walker	A B 7-Scott 6-M-Thorpe	A B Bauer/Halloway Hall./Bauer	
11:00-11:45	A B 5-Pomeroy 5-Thomas	A B 5-Secka 5-Screven	A B 5-Screven 5-Secka	A B 5-Thomas 5-Pomeroy	A B Elliott/Waller Waller/Elliott (11:01-11:50)	
11:55-12:40	A B 4-Ayers 4-Willingham	A B 5-Pomeroy 5-Thomas	A B 5-Thomas 5-Pomeroy	A B 4-Willingham 4-Ayers	A B Open* Open*	
12:40-1:10	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	
1:15-2:00	A B 4-Calhoun 4-Jackson	A B 4-Ayers 4-Willingham	A B 4-Willingham 4-Ayers	A B 4-Calhoun 4-Jackson	A B Open* Open*	
2:05-2:55	A B 7-Halloway 7-Bauer	A B 6-Waller 7-Elliott	A B 7-Elliott 6-Waller	A B 7-Bauer 7-Halloway	A B Scott/Walker Walker/Scott	
3:00-3:45	A B 5-Secka 5-Screven	A B 4-Jackson 4-Calhoun	A B 4-Calhoun 4-Jackson	A B 5-Screven 5-Secka	A B M-T/Dawk. Dawk./M-T (3:00-3:50)	
3:45-4:15	Assist with dismissal	Assist with dismissal	Assist with dismissal	Reading prep	Assist with dismissal	
					*Refer to K-3rd schedule for classes scheduled during this time for PE teachers.	

図表 5 教員研修時間割

Drew Charter School Lunch, PD, Specials times– 2002-2003

H PD = House Professional Development time (Students go to specials during this time)

P/GL PD = Personal/Grade Level Professional Development time (Students go to specials during this time)

Lunch = The first time listed is when your class should arrive in the cafeteria; the second time listed is when your class needs to leave the cafeteria.

<u>House of Madame C.J. Walker</u> (H PD held in Rm. 122, Foreman)		<u>H PD</u>	<u>P/GL PD</u>	<u>Lunch</u>
K	Terese Lackley	10:10-10:55	9:15-9:55	11:08-11:38
Aide	LaRissa Williams	10:10-10:55	9:15-9:55	11:08-11:38
K	Lyvelle Simms	10:10-10:55	9:15-9:55	11:08-11:38
Aide	Sonora Porter-Cost	10:10-10:55	9:15-9:55	11:08-11:38
1	LaShawn Williams	10:10-10:55	2:05-2:50	11:24-11:54
1	LeTosha McDay	10:10-10:55	2:05-2:50	11:24-11:54
2	Colleen Bibby	10:10-10:55	11:00-11:45	11:56-12:26
2	Cherea Foreman	10:10-10:55	11:00-11:45	11:56-12:26

House of Mae Jemison
(H PD held in Rm. 123, Smith)

K	Dawn Miles	1:15-2:00	9:15-9:55	11:00-11:30
Aide	Eleanor Daniel	1:15-2:00	9:15-9:55	11:00-11:30
K	Shefau Dabre-Rufus	1:15-2:00	9:15-9:55	11:00-11:30
Aide	Keisha Jones	1:15-2:00	9:15-9:55	11:00-11:30
1	Sherique Smith	1:15-2:00	2:05-2:50	11:16-11:46
1	Bernadette Fox	1:15-2:00	2:05-2:50	11:16-11:46
2	Dameron Anderson	1:15-2:00	11:00-11:45	11:50-12:20
2	Marc Hood	1:15-2:00	11:00-11:45	11:50-12:20

House of Harris
(H PD held in Rm. 222, Samuels)

3	Terrence Rogers	11:55-12:40	3:00-3:45	1:16-1:46
3	Amzie Samuels	11:55-12:40	3:00-3:45	1:16-1:46
4	Devin Ayers	11:55-12:40	1:15-2:00	12:36-1:06
4	Regina Willingham	11:55-12:40	1:15-2:00	12:36-1:06
5	Rodney Thomas	11:55-12:40	11:00-11:45	12:45-1:15
5	Tom Pomeroy	11:55-12:40	11:00-11:45	12:45-1:15

House of Banneker
(H PD held in Rm. 206, Rasmussen)

3	Brittany Rasmussen	3:00-3:45	11:55-12:40	1:08-1:38
3	Eddie Johnson	3:00-3:45	11:55-12:40	1:08-1:38
4	Michaelangelo Calhoun	3:00-3:45	1:15-2:00	11:32-12:02
4	Keith Jackson	3:00-3:45	1:15-2:00	11:32-12:02
5	Billettris Secka	3:00-3:45	11:00-11:45	12:55-1:25
5	Kristal Screven	3:00-3:45	11:00-11:45	12:55-1:25

5 Jodi Donkin 3:00-3:45 11:00-11:45 12:55-1:25

<u>House of Latimer (Jr. Academy, 6th/7th)</u>	<u>PD</u>	<u>PD</u>	<u>Lunch</u>
Terrell Walker (Lead)	10:07-10:57	2:05-2:55	12:00-12:30
Andrea Scott	10:07-10:57	2:05-2:55	12:00-12:30
Ernel Dawkins	10:07-10:57	3:00-3:50	12:00-12:30
Angela Moore-Thorpe	10:07-10:57	3:00-3:50	12:00-12:30
Dallas Bauer	10:07-10:57	2:05-2:55	12:15-12:45
Bryce Elliott	11:01-11:51	2:05-2:55	12:15-12:45
Robert Waller (Soc. Sc. CC)	11:01-11:51	2:05-2:55	12:15-12:45
Kyia Halloway	10:07-10:57	2:05-2:55	12:15-12:45

<u>Specials</u>	<u>H PD</u>	<u>PD</u>	<u>Lunch</u>
World Lang. Kiedi Jamison	8:25-9:10	7:45-8:25	12:40-1:10
World Lang. Kim Carter	8:25-9:10	7:45-8:25	12:40-1:10
Music Laura Fisher	8:25-9:10	7:45-8:25	12:40-1:10
Music Jim Carter	8:25-9:10	7:45-8:25	12:40-1:10
Art Natalie Brandhorst	8:25-9:10	7:45-8:25	12:40-1:10
Art Tracey Hill (Lead)	8:25-9:10	7:45-8:25	12:40-1:10
P.E. Sebastian Crawl	8:25-9:10	7:45-8:25	12:40-1:10
Drama Tracey Copeland	3:45-4:15	7:45-8:25	12:40-1:10
Dance Heather Pace	8:25-9:10	7:45-8:25	12:40-1:10

Special Edison

Kelly Waters (Coordinator)
 Mecca Handy
 Eurith Bowen (Recruitment Coord.)
 Tonya Thompson
 Laetitia Burdett-Ross (Aide)
 Kelly Bronsink (Speech/Language)

H PD – Tuesdays/Thursdays from 7:30-8:15

(T. Thompson leaves at 8:00 on Tues. to be with homeroom and at 7:45 on Thurs. to be with homeroom.)

【補足説明】

以下のインタビューでは、毎日の研修の時間をどのように時間割に組み込んでいるかの説明がなされる。ひとこと言えば、自分の受け持ちの児童生徒が特別科目（後述）を受けている時間帯、すなわち担任にとっての空き時間を利用して、チームで研修を行う時間を捻出しているということであるが、教師のローテーションの仕組みは非常に複雑である。そこで、以下のインタビュー記録と重複する部分もあるが、理解を助けるために、この囲みの中でこの学校の生徒組織と教員組織、および時間割について補足しておきたい。

生徒は複数学年からなる「ハウス」に所属している。ハウスといっても寄宿舎があるわけではないが、家族的な集団でありたいという意味でこの名称が用いられている。ハウスが家族的であるためには、ある程度少人数でなければならない。そこで、幼稚園～2年生、および3～5年生には、それぞれふたつずつのハウスが存在する。ハウスの名称は、地域

に関わりの深い偉人の名前が用いられている。

図表 2 は、教師用の研修予定表であるが、最右列にあるのがハウスの名称である。最左列が、対応する学年である。K-2 とあるのは、幼稚園～2 年生の意味である。また、JA はジュニア・アカデミーの略で、第 6～7 学年を指す。K-2 と 3-5 は、それぞれプライマリーとエレメンタリーのアカデミーに対応するが、本校では通称、K-2、3-5 の名称の方を用い、6-7 のみ、JA またはジュニア・アカデミーと呼んでいる。来年度に第 8 学年が増設されることの布石かもしれない。ハウス名の WHAMD は特別科目担当教員、スペシャル・エジソンは特殊教育担当教員を指す（上記の学校概要参照）。

図表 3（幼稚園～3 年生）と図表 4（4～7 年生）が特別科目（WHAMD）の教員用の時間割である。日本の学校の時間割は曜日によって違うのが普通であるが、アメリカでは毎日共通であることが多い。本校では、A 日程の曜日と B 日程の曜日を 2 種類設けている。たとえば、音楽の Fisher 先生は、A 日程曜日の 9:15～9:55 に幼稚園の Simms 学級の児童を教え、10:10～10:55 には 1 年生の McDay 学級の児童を指導する。

これらの特別科目は、ハウスごとの研修が可能なようにハウスに対応した複数学年で共通する時間帯に時間割が組まれる。たとえば、3 年生の児童は図表 3 にあるように、11:55～12:40 の時間帯に、音楽、世界語、美術、ダンス、体育を学ぶが、同じ時間帯に、図表 4 にあるように、Harris ハウスの 4 年生と 5 年生が音楽、世界語、美術、ドラマ、体育を学ぶ。そしてこの時間帯を利用して、Harris ハウスの研修会が毎日行われる。

それをまとめたのが、図表 5 である。表中「H PD」とあるのが、ハウス単位の研修 (House Professional Development)、「P/GL PD」とあるのが、個人別・学年別研修 (Personal/Grade Level Professional Development) である。さきほど、例でみた、Harris の研修会は、児童たちが WHAMD を学んでいる 11:55～12:40 にスケジュールされている。また、Harris ハウスの 3 年生の教師にとって、3:00～3:45 が個人別・学年別研修の時間で、学年で話し合ったり、ひとりずつ研修を行ったりする。このように、各教師は、毎日 2 時間の研修が義務付けられている。なお、WHAMD とスペシャル・エジソンの教師は、毎日、朝の時間帯に全体研修と個人別研修を行うことになっている。

さて、それぞれのハウス単位での研修会で何をするかは、曜日毎に決められている。それを表したのが図表 2 である。たとえば、上から 3 行目にある Harris ハウスでは、チームリーダー（ハウス主任）が Samuels 先生で、集合場所は第 222 号教室で、月曜日にハウス全体のことを話し合い (House Development)、火曜日にカリキュラム、水曜日に生徒の問題行動等 (Student Concerns)、木曜日に特殊教育か教育テクノロジー（隔週）、金曜日に教師の連携 (Teamwork) について話し合う研修会が持たれる。

これが特別科目 (Specials) の時間割です。これが幼稚園から 3 年生までの時間割 (図

表 3)、これが 4 年から 7 年生 (図表 4) です。音楽、世界語 (本校ではスペイン語)、美術、ダンス、体育の時間がありますね。これらは違う学年に対して同じ時間帯に行われています。児童生徒がこれらの時間の学習をしている時間帯に、そのハウス担当の教師集団はハウス研修会を持ちます。このようにしてローテーションを組んでいます。どの時間帯にハウス研修会を持つかは、生徒がいつ特別科目を学習しているかによって決まりますので、研修会はいろいろな時間帯に行われることになります。

学校は 8 時に始まりますが、毎朝、8 時 25 分から 9 時 55 分までの 90 分間のリーディングの時間があります。リーディングは別の教師が担当しますので、その間を利用して、個別の研修時間が組まれています。図表 3 と 4 のうち、PPD とあるのは、個別研修の時間 (Personal Professional Development) で、HPD はハウス単位の研修会 (House Professional Development) です。

図表 2 で見ますと、Banneker のハウスの教師は、毎日 3 時から 3 時 45 分にハウス研修会を持ちますが、木曜日に児童生徒の問題行動について話し合い、火曜日にカリキュラムについて、月曜日にはハウス全体のことについて話し合います。下から 2 つめにある、WHAMD は、特別科目のことで、World Language, Health & Physical Education, Art, Music, Drama & Dance の頭文字です。全米的にみても、これだけ多様な特別科目を教えている公立学校はそれほど多くありません。図表 3 や 4 には、A と B という表記がありますが、このように隔日にローテーションして特別科目を教えています。

図表 2 のうち、JA はジュニア・アカデミーの略で、第 6~7 学年を表します。12~14 歳です。これはエジソン・スクールズ社の呼称です。幼稚園から第 2 学年は、プライマリー・アカデミー、第 3 学年から第 5 学年がエレメンタリー・アカデミーと呼ばれています。アメリカは学校制度をしばしば変更してややこしいのですが、かつてミドル・スクールと呼んだりジュニア・ハイスクールと呼んだりしていた学年がジュニア・アカデミーです。

これまで教師の研修についてお話しましたが、本校の特長のひとつに、放課後学習プログラムがあります。学校は 8 時に始まり 4 時に終わりますが、(全 700 人のうち) 約 325 人の児童生徒が、放課後学習プログラムに参加し、4 時から 6 時までの間、学校で学習をします。ここにパンフレットがありますので、詳しくはこれをご覧ください。

【放課後学習プログラムのパンフレットの要約】

ドゥルー校では、午後 4 時、終了のチャイムが鳴らない。子どもたちは、自ずと放課後学習プログラムが始まる時間とわかっている。8 時間も学校にいれば、子どもたちは学校から飛び出たくなるだろうと多くの方は考えるが、ドゥルー校ではそんなことは起こらない。子どもたちは放課後学習プログラムを楽しんでいる。放課後学習プログラムには、学力向上指導 (Academic Tutoring) とエンリッチメント活動 (Enrichment Activities)

がある。

学力向上指導は、少人数指導を基本としており、ボランティアまたは雇用スタッフが指導にあたる。子どもたちは、放課後学習プログラムに来ると無料のスナックをもらえる。そして、宿題、20分間リーディング、特別プロジェクト、標準テスト準備クラス、コンピュータの時間、メディア・センターの時間などに参加する。

エンリッチメント活動には、理科クラブ、エチケツト、テニス、ゴルフなどがある。様々な活動を体験することにより、将来の職業について考えたり、学業を続けたいくなるような興味を持つようになったりする。

放課後学習プログラムの目標には、学力向上、スポーツ、体験の豊富化、自分について考える、大人と積極的につきあう、仲間と積極的につきあう、有意義な参加、社会について考える、などがある。

放課後学習プログラムの講師は、この地域や他の地域から来校しますが、放課後学習プログラムの常勤コーディネータは、われわれの教職員の一人です。コーディネータは、地域の諸団体と連絡を取り合い、講師のスケジュールを調整します。

週のうち、3日は学力向上指導で、宿題がちゃんとできるように指導します。週のうち2日は、エンリッチメント活動です。ダンス、テニス、ゴルフ、理科などの活動があります。

保護者は1週間につき、15ドル支払います。しかし、連邦政府の給食費免除の資格がある家庭は週当たり5ドルです。それほどの出費にはなりません。

エジソン・スクールズ社にも放課後学習プログラムがありますが、本校の放課後学習プログラムはそれとは別です。エジソン・スクールズ社と提携する以前から、この地域にはすぐれた放課後学習プログラムが存在しており、実績もありましたので、エジソン・スクールズ社のプログラムを導入せず、われわれ独自のものを継続させました。

学校の財政面ですが、本校は公立学校ですので、教育委員会からの予算があります。それに加え、イースト・レイク・コミュニティ財団があります。この財団は寄付金を集め、この地域全体を支援していますが、この財団からの資金的援助があります。これが一般の公立学校とは違うところです。昨年、校舎を新築しましたが、教育委員会からの予算は皆無で、その費用はすべて財団が持ちました。約1千6百万ドルです。昨年は、本校の校舎のほか、隣接するYMCAの施設と子育て支援センターの施設が建設されましたが、これの費用も負担しました。合計4千万ドルです。

昨年、州の教育委員会から、子ども一人あたり、6千4百ドルが支給されました。学校ごとに支給される予算もあります。これは地域によって地域の税金によって増額されます。ですので、昨年の場合、ざっと半額が州予算から、半分が地域の教育委員会の予算から出

ています。しかし、すべての金額は地域の教育委員会経由で支給されます。予算は年によって増減します。

〔ここで、突然、生徒を呼び出す校内放送が流れる〕ふだんは、このようなことはないのですが……、通常、授業中に校内放送を使わないのですが……、何か特別なことが起こったのでしょうか。

アトランタ市の財務担当が、チャーター・スクールにどれだけの金額を配当するかを決めます。計算式があるのですが、われわれは十分な支給とは思っていません。

学校内で予算をどのように使うかは、エジソン・スクールズ社との連携が関わってきます。エジソン・スクールズ社の財政担当のスタッフと相談します。ほとんどの予算は人件費に使われます。全予算の80～85%が人件費です。残りの金額で、光熱費などをまかさないです。光熱費は、昨年、1月あたり1万千ドルでした。だいたい、年間15万ドルから20万ドルぐらいを光熱費に使います。その残りで教材などを購入します。

(副校長)

ハウス単位の研修会の論題のひとつに問題行動 (student concerns) がありますが、それがどのようなことを話題にしているかを説明します。この研修会では、学業上の問題を抱えている子ども、あるいは学業を妨げている問題行動のある子どもを取り上げます。まず、どの子が問題をもっているかを話し合います。学業上の問題だけではなく、家庭で抱えている問題を取り上げることがあります。このようなことについて教師が知らないこともあります。そこで、教師を支援するために2名のソーシャル・ワーカーの免許をもったスタッフを雇っています。われわれは、児童生徒支援マネージャー (Student Support Manager、SSM) と呼んでいます。先ほど、校内放送をしていたのがそのひとりです。彼らの任務は、学校と家庭との間をつなげることです。彼らは校内では基本的にはカウンセラーの仕事をしています。免許を持ったソーシャル・ワーカーです。ですから、州の組織ともチャンネルがあります。精神的健康、家族の支援、衣類の問題、健康の問題、とにかく子どもに関する様々な種類の問題について扱います。たとえば、月曜日には幼稚園～第2学年のうちひとつのハウスが、児童の問題行動についての研修会を持ちますが、そこにソーシャル・ワーカーと私が加わります。火曜日には、同学年のもうひとつのハウスが児童の問題行動の研修会を催しますので、私たちはそこに出席します。

研修会の論題のうち、カリキュラムは、もっぱら学習指導についてです。Vaughn氏が責任者です。

ここで、ハウス制度について説明しましょう。ハウスは幼稚園～第2学年、第3学年～第5学年、第6学年～第7学年といった複数学年から構成されています。同じ、幼稚園～第2学年でも、ふたつのハウスに分かれています。ここでハウスの名称に注目してください。これらの名称は、有名なアフリカ系アメリカ人の名前にちなんでいます。本校は99%の児童生徒がアフリカ系アメリカ人です。Madame C.J. Walkerハウス、Mae Jemisonハ

ウス、Harris ハウス、Benjamin Banneker ハウス、Louis Latimer ハウスがそうです。子どもたちはこれらのハウスに分属されます。これらの名称は昨年から採用されました。途中でハウスを変わることもできます。別の学校ではハウスの代わりにカレッジと言っているところもあります。たとえば、UCLA、ハーバード、バークレーなどです。私たちは有名なアフリカ系アメリカ人の名前を選択しました。子どもたちが、自分たちに誇りを持ち、彼らについてもっと知りたいだろうと思ったからです。

同じ学年にあるふたつのハウスは、本質的には同じ集団です。能力別編成といったようなものではありません。それぞれのハウスは独立しています。ハウスの中では教師同士が非常に協力し合います。Walker ハウスが農場に遠足に行つたとしましょう。子どもたちはイチゴ狩りをします。Walker の教師集団はとても協力し合います。しかし、Jemison の子どもは農場には行かず別のところに行くといったことがあります。しかし、アカデミーレベルで協力することもあります。たとえば、今晚、コンサートがあります。プライマリー・アカデミーのふたつのハウスの教師は音楽に造詣が深いので、みんなで協力して今晚のコンサートを催します。ふだんは別々に教育活動をしてはいますが、共同して行うこともあります。カリキュラム自体はどちらのハウスでも同じものを指導します。そして、ハウスの中での結束は強く、それぞれ独自の指導を行っています。ひとつのハウスにつき、6 人の教師が担当します。たとえば幼稚園～第 2 学年のハウスは、2 人の幼稚園教師、2 人の第 1 学年教師、2 人の第 2 学年教師の合計 6 人（補助教員 2 人を入れると計 8 人）の教師がひとつのハウスを構成します。

ハウスの教師を支援するために、2 人の児童生徒支援マネージャーがいます。1 人が幼稚園から第 3 学年、もう 1 人が第 4 学年から第 7 学年までを担当します。その業務のほとんどをハウスの教師と協力しながら行います。

ハウス同士の合同活動の例として、幼稚園～第 2 学年の Walker ハウスと第 3 学年～第 5 学年の Benjamin Banneker ハウスとが共同して活動をすることもあります。学習面で共同することも、祝賀会で共同することもあります。

ハウスには様々な活動があります。ハウス・ミーティングはそのひとつです。遠足や祝賀会などの計画を自分たちで話し合います。タウン・ホール・ミーティングとも呼ばれています。自分たちの意見を表明したり、情報を共有したりする機会です。ジュニア・アカデミーの生徒たちは、今、学生新聞を発刊したいと言っています。このようなことをタウン・ホール・ミーティングで話し合いをします。先日は学校食堂のメニューが議題になっていました。メニューは彼らの大きな関心事です。もっと他の選択肢はないのかと。このようにして、われわれに対してきちんと意見を表明する機会を与えています。

ハウス内の教師の協力を話に戻しますと、教師は共同して授業改善に取り組みます。お互いのよい教育実践を学び合います。伝統的な学校では、ある学級で行っていることがとすると孤立してしまいがちですが、ここではチームワークを基本としています。定期的に会

合を持ち、お互いに考えていることを共有します。ある実践がうまくいったり、問題を抱えた子がいたりしたりしたら、他の学級の実践を参考にしたり、情報を共有したりします。メンタリング・プログラムとして、ベテランの教師が新任の教師の授業を参観したり、新任の教師がベテランの教師の授業を参観したりすることがあります。われわれは、新任の教師が力量形成するのを助けます。

(校長)

今、ここにお持ちしたのが、Walkerハウスの研修会の議題予定表です (図表 6)。

図表 6 ハウス研修の議題一覧

Madame W Walker

Team Meeting Agenda **Week of 10/28 - 11/1**

- Calendar (keeping track, reporting at meetings, field trips, upcoming events and deadlines)
- Minutes (recording meeting notes)
- Time Keeping (keep track of time)

Ground Rules:

- Be on time 10:10-10:55.
- Be a good listener.
- Stay on task.
- Be prepared for the meeting.
- Stay positive.

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
<p>FASST</p> <p>Student Concerns:</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p><i>Family and student support</i></p>	<p>3 min. Calendar</p> <p>Student Achievement Plan</p> <p>Team Building</p> <p>Data Management</p> <p>Professional Dev.</p> <p>Mtg. With Ms. Eldridge</p>	<p>Grade Level Meetings</p> <p>Curriculum: Math Science Language Arts Social Studies</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	<p>3 min. Calendar</p> <p>Tech.</p> <p>Or</p> <p>Special Edison</p> <p>Mtg. With Zalanka/Buchanan</p> <p>Or</p> <p>Waters</p>	<p>3 min. Calendar</p> <p>Discuss agenda items from leadership meeting, curriculum and staff meetings.</p> <p><u>House Business:</u></p> <p>Behavior Party</p> <p>Field Trips</p> <p>Parent Night</p> <p>Towne Hall Mtg.</p> <p>Discuss newsletter</p> <p>Due for September</p> <p><u>On your own:</u></p> <p>☐ Update and complete all lesson plans for Monday.</p>

このハウスは、幼稚園～第 2 学年のグループです。月曜日は、FASST (FAMILY and Student Support Team) と呼んでいます。子どもの問題行動について話をします。通常は、この欄に次の週に話題にしたい子どもの名前を書き込みます。今は、プライバシーの関係上何も書かれていませんが。教師は、これにあらかじめ、どの子が話題になるかを知ります。

火曜日には、ハウス主任の Foreman 先生が 3 分間で 1 週間の行事予定を説明します。それから、学力向上の計画について話し合います。次はチーム・ビルディングです。毎回の研修会の最初に「児童が伸びたとき、どのように祝福しますか」のように書いたプリントを配り、それについて話し合います。それから、データ・マネジメントです。エジソン・スクールズ社と提携しているのでいろいろな試験の点数やベンチマークテストの結果が送られてきます。それらのデータの読み方や活用のしかた等を学びます。そして校長の私との意見交換の時間があります。

水曜日は、カリキュラムの日ですが、この日は学年ごとに研修会がもたれ、それぞれに管理職の職員が参加しました。その中で、算数、理科、言語、社会それぞれの指導案が検討されました。

木曜日は、ハウス主任が再度 1 週間の行事を確認します。そして、教育テクノロジー担当者か、スペシャル・エジソンすなわち特殊教育の担当者と研修会を持ちます。

そして、金曜日は、チームワークです。これは一種のオープンタイムで、必要に応じていろいろなことを話し合います。たとえば、ハウス主任会議やカリキュラム・コーディネータ会議で議論された話題について話し合います。遠足、保護者会、タウン・ホール・ミーティング、ニューズレターなどについて話し合います。

このようにして、校内研修会がもたれています。ハウス主任は、こういったプリントを使い、何が話題になるかについてハウスの教師たちと情報を共有しています。

そして、これが教員の一覧表です (図表 2)。ハウス名がありますが、これらは、有名なアフリカ系アメリカ人の名前です。それから、校名のチャールズ・ドゥルーについてご説明していませんでしたね。本校が設立される前に、この土地に、チャールズ・R・ドゥルー・エレメンタリー・スクールという学校がありました。地域の人々は名前を存続させることを希望しました。チャールズ R.ドゥルーはもうこの世にいません。1950 年に亡くなりました。彼は、血液銀行、血漿や血液型の研究などで偉大な業績を残しています。アトランタでは、多くの学校が有名なアフリカ系アメリカ人の名前をとって命名されています。本校がドゥルー・チャーター・スクールと略されるように、多くの学校も省略して呼ばれますが、フルネームを見れば、たいがい重要な功績を残した人の名前であることがわかります。付け加えることはありますか？

(副校長)

彼は黒人であったため、南部の病院では白人から輸血を受けることができず、血漿の研

究者であり血液銀行の考え方を広めたにもかかわらず皮肉なことに、出血多量で亡くなります。子どもたちは歴史に興味をもって学ぶことができます。彼はアフリカ系アメリカ人の地域では、非常に重要な人物です。アトランタのほとんどの学校は、積極的な貢献を為したアフリカ系アメリカ人で、教師が子どもたちに学んで欲しいと思うような人物の名前が使われています。

(校長)

教員組織に話をもどしますと、幼稚園にはそれぞれの学級に補助教員がいます。彼らは免許を持っていません。補助教員は免許を持っている必要はありません。しかしながら、現在、連邦政府は、新任として補助教員となるためには、2年間の大学教育を受けるか、資格試験に合格するかを義務付けています。すでに現職にある補助教員については2006年までにいずれかの条件を満たすことが義務付けられています。それ以降、無資格の補助教員を雇用すれば、連邦政府からの補助金をもらうことができなくなります。

本校はチャーター・スクールですから、免許を持っていない教師を雇うことができるはずですが、問題は、連邦レベルの法律が州法に優先されて適用されることです。州の法律によると、チャーター・スクールは免許を持っていない教師を雇用することができます。しかし、連邦政府は、No Children Left Behind といった施策で補助金を出していますが、補助金を受けるためには、免許を持っている教師を雇用することが条件となっています。州法では免許が要らないと言っているにもかかわらず、連邦法が義務付けていたら、補助金をもらうためにはそれに従う必要があります。

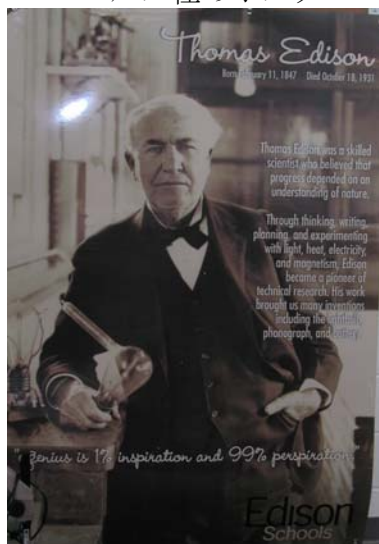
アトランタでチャーター・スクールが始まったのは5年ほど前ですが、チャーター・スクールを作るいちばんの理由は、自由と自治を確保することです。本校でも自由と自治がありますが、連邦政府の補助金に関してこのようなことがあるので、チャーター・スクールは、徐々にその自由が奪われつつあります。

話を元に戻すと、CCは、カリキュラム・コーディネータを指します。たとえば、図表2のHarrisハウスのSamuels先生は3年生の担任でハウス主任ですが、同時に算数のカリキュラム・コーディネータです。彼女がカリキュラムが正しく教えられているかどうか、教員が十分に必要な訓練を受けているかどうか、十分に援助を得ることができているかどうか、といったこといっさいに責任を持ちます。ハウス内のカリキュラムだけでなく、本校全体の算数のカリキュラムに責任を持ちます。重要な責務です。常勤で学習指導をしながらのコーディネータの仕事はたいへんです。

また、Willingham先生は、ライティングのカリキュラム・コーディネータですが、同時に、リクルートメント・コーディネータでもあります。彼女は他のリクルートメント・コーディネータと共に本校への教員の採用の仕事をします。本校が教員を補充をする必要があるとき、外部から教員を導入します。彼女たちは面接のためのチームを組織します。

そして、ジュニア・アカデミーの教師集団があります。第6学年と第7学年担当の教師

図表 7 エジソン・スクールズ社のポスター



がひとつのグループを構成しています。8人おります。

それから、WHAMDつまり特別科目の教師集団、スペシャル・エジソンの教師集団があります。スペシャル・エジュケーションではなく、本校では、エジソン・スクールズ社と提携しているので、スペシャル・エジソンと呼びます。あその壁に大きなエジソンの写真（図表 7）が貼ってあるとおりです。いつもエジソンがこの部屋にいるようですね。

そして、読書指導、教育テクノロジーのチームがあります。

最後に管理職のグループがあります。ここに名前がありませんが、スペシャル・エジソンのコーディネータの Waters 先生と学校テクノロジー・マネージャーの Zalanka 先生も管理職の一員です。SSM はスチューデント・サポート（児童生徒支援）マネージャーの略です。SSM は伝統的には通常カウンセラーと呼ばれているスタッフで、家庭と学校の橋渡しをします。ソーシャル・ワーカーでもあるし、カウンセラーでもあり、家族との橋渡しでもあります。

ビジネス・サービス担当者がいるのも、本校の特徴だと思います。日々の経理を担当する人物が必要ですが、本校には学区からの役人がいません。ですから、この経理担当者を置いています。予算の管理、経理のすべて、命令書、請求書、支払いなどに責任を持ちます。エジソン・スクールズ社への支払いも彼女の仕事です。

この 15 名がいわゆる管理職です。このメンバーで学年が始まる前に会議を何度も持ち、何をする必要があるか、学校全体で主に課題となっていることは何か、何を考えておかなければならないか、新学年をどのように始動させるか、新任教師の研修（mentor）をどうするか、年間計画をどうするか、などを話し合い、議事録に残します。月に 1 回行う会議、週 1 回行う会議を計画します。教師集団が課題解決ができるように配慮し、児童生徒の学力向上に努めます。管理職として、教師の士気向上につとめ、成し遂げた仕事に対してはそれを認めています。管理職の会議は放課後の 4 時 15 分から 6 時前までの時間に行います。非常に忙しいです。昼間は児童生徒がいて指導をしなければなりません。ハウス等の研修会もあります。ですから、大勢がまとまった時間を作るには、この時間帯でなければなりません。

本校には学校評議会があります。まず、アトランタ学区には教育委員会があります。この教育委員会が本校のチャーターを認可しています。そして本校には本校の学校評議会が置かれています。評議員の 60% が保護者です。これはわれわれにとって非常に重要なことです。もともとチャーター・スクールの評議会には、過半数の保護者がいることが法律で定められていました。今はその法律は改正されましたが、多くの保護者が評議員であるこ

とをわれわれは望んでいます。評議会の議長は保護者です。チャーター・スクールとして学校を運営していくには、保護者の積極的な関与が必要です。評議会は月 1 回開催されます。評議会に対して、われわれ管理職は、報告する義務があります。毎日のこまごまとしたことまでではありませんが、月単位の方針などを報告します。

図表 8 保護者、児童、学校間の契約書

Drew Charter School Family/School Contract (for students in grades K-2)

301 East Lake Blvd., Atlanta, GA 30317
404-687-0001 (phone)/ 404-687-0480 (fax)

Student's Name _____
Grade/Homeroom _____

The mission of Drew Charter School is to serve the children and families of East Lake and the surrounding communities by providing a learning environment that emphasizes high achievement and character development. The staff believes that every child has gifts and talents that must be discovered and nurtured. We are relentless in ensuring that all children learn and achieve. We are committed to achieving this mission by working together as a staff, with our students, their families, and community partners.

The staff at Drew Charter School commits to partnering with families in order to accomplish our mission. The staff will:

1. Provide a safe and healthy learning environment;
2. Communicate regularly about your child's progress;
3. Respond to any messages or notes that we receive from parents/guardians;
4. Work with parents/families to develop written goals and plans for each child through Quarterly Learning Contracts;
5. Interact in a professional and respectful manner with families;
6. Provide curriculum and behavioral standards for your child's grade level at the beginning of the school year;
7. Provide many kinds of volunteer opportunities that meet the needs of families as well as the school;
8. Hold meetings at a variety of times in order to meet different family schedules;
9. Provide the schedule of school events and meetings in ample time for families to arrange to attend;
10. Be flexible in setting up parent-teacher conferences;
11. Provide opportunities to serve on parent advisory committees; and
12. Welcome input and feedback on strengths and weaknesses of the school's program. This feedback includes filling out a satisfaction survey in April of each year.

The parents/guardians of children who attend Drew Charter School commit to partnering with the school staff in order to accomplish our mission and reach high student achievement. As a parent/guardian I will:

1. Review and answer any messages that I receive from my child's teachers or other staff members;
2. Make sure that my child is at school each day, is on time (in class no later than 8:00 a.m.), and is ready to learn;
3. Make sure that my child is in school until the end of each school day (4:00 p.m.);
4. Pick my child up on time from dismissal (4:00 p.m. if not in the after school program; 6:00 p.m. if in the after school program) as well as all extracurricular activities;
5. Interact in a respectful and courteous manner with all school staff;
6. Know and reinforce all school rules;
7. Attend all required parent-teacher conferences (including all Quarterly Learning Contract conferences) as well as any other conferences that are requested;
8. Adhere to the goals set at QLC conferences;
9. Attend a minimum of 4 school sponsored parent workshops during the year (for example: open houses, testing workshops, curriculum nights, and family nights);
10. Make sure that my child completes all of his/her homework, including at least 20 minutes of reading per night.

(continued on back)

11. Sign the Read and Respond sheet on a nightly basis;
12. Ask my child for the Monday folder every week, read the information in the folder, and sign and return any required forms;
13. Let the school administration and teacher know about any change in address, phone number, or family status for my child within 7 days of the change;
14. Enforce the student dress code;
15. Sign and follow the Acceptable Use Policy so my child may use a computer at school; and
16. Report any illness or absence to the school and keep my child home if he or she is ill.

The students at Drew Charter School commit to partnering with the school staff and their families in order to reach high achievement. Each student agrees to work to the best of his/her ability. As a student I will:

1. Attend school regularly;
2. Come to school on time and prepared to learn;
3. Work hard to do my best in class and school work;
4. Know and follow the code of conduct and core values;
5. Be respectful to all adults and fellow students in my words and actions;
6. Follow directions the first time given;
7. Return homework daily;
8. Read for 20 minutes every night and return my Read and Respond form daily;
9. Help keep my school safe;
10. Follow all school-wide rules and expectations;
11. Keep my hands, feet, and personal objects to myself;
12. Be responsible for my materials and school property and equipment;
13. Ask for help when I need it or when I don't understand;
14. Accept responsibility and consequences for my behavior; and
15. Be the best that I can be!!

I agree to the terms of this contract and understand that I will receive a copy of it.

Signature of Parent or Guardian _____
 Name of Parent or Guardian _____
 Date _____
 Relationship to the Child _____
 Address _____

 Home Number _____
 Work Number _____
 Email Address _____

Signature of Student _____
 Name of Student _____
 Date _____

Signature of Drew Charter School Staff _____
 Name of Staff/Position _____
 Date _____

Signature of Drew Charter School Staff _____
 Name of Staff/Position _____
 Date _____

(副校長)

今年から保護者と児童との契約書を交わすことを始めました。図表 8 は幼稚園～第 2 学年用の契約書です。この契約書には学校と家庭がパートナーシップについて書かれおり、学校はこれこれのことをします、保護者としてこれこれのことをします、児童生徒としてこれこれのことをします、といった同意事項が列挙されています。言葉遣いは学年によって違い、今は 2 種類あります。幼稚園～第 2 学年用の契約書と第 3 学年～第 7 学年用の契

約書です。子どもの学力を保障するためには家庭や地域と学校のパートナーシップが必要です。いろいろな理由で、保護者がそのパートナーシップの埒外に置かれることがよくあります。こうやって契約を結ぶことで、意識的に、保護者に積極的に関与してもらおうと思っています。これは非常に重要なことです。この契約書の書式を学校評議会が承認しました。

(校長)

本校はエジソン・スクールズ社と提携していますが、エジソン・スクールズ社はいろいろな資料を提供してくれます。たとえば、本校を創設する際に、われわれ管理職チームは管理職全国会議に参加しました。エジソン・スクールズ社はこのように教員研修のための素晴らしい機会を提供してくれます。管理職としての任務は何か、どのように健全で優秀な教員組織を構成するか、どのように教師を支援するか、を教えてくださいました。また、さまざまな資料や情報を提供してもらいました。教師が共同して取り組むこと、教育実践を反省すること、アカウントビリティ、評価、カリキュラム、地域や家庭との連携、など有用な情報です。エジソン・スクールズ社の素晴らしいところは、このように大きな枠組みを与えてくれることです。学校はそれぞれ事情が異なっています。しかし、エジソン・スクールズ社は基本的な基盤を示してくれます。また、学校に応じた援助もあります。それぞれの学校がエジソン・スクールズ社に個別の課題を報告します。たとえば、本校の特殊教育があります。通常のエジソン連携校では、教育テクノロジーに関して隔週の研修機会が設けられています。しかし、本校には障害をかかえた子どもが大勢おり、本校の教師は、統合教育や特殊教育に関して援助が必要であると感じていました。最初はその都度、特殊教育専門の教師に相談していましたが、隔週に1度といったように定期的に研修を受ける必要を感じ、交渉の末、教育テクノロジーと同じように隔週に研修会を設けることになりました。

ほかの教科のカリキュラム等については、創立時には、エジソン・スクールズ社から指導者を1名派遣してもらって指導を受けましたが、3年目の今はその必要がありません。半年に1度エジソン・スクールズ社の学校担当の副社長が学校巡回に訪れる程度です。しかし、電話やメールではエジソン・スクールズ社に常時相談しています。本校のリーディングとライティングのカリキュラム・コーディネータは週1回、エジソン・スクールズ社のカリキュラム・コーディネータに電話をかけています。基本的には研修の内容について相談しています。他のカリキュラム・コーディネータは月に1度電話をしています。

チャーター・スクールとしてスタートする際に、教師の意識をどのように変えたかという質問ですが、本校はスタート・アップ（新設型）チャーター・スクールです。前身となる小学校はありましたが、本校設立当時は閉校してしばらくたっており、連続性はありません。本校の教師はいわば全員が新任でした。他の学校で教職経験のある教師もたくさんいますが、本校にとってはみな新赴任の教師たちだったのです。本校創設にあたって、教

員採用のための面接を行いました。そのときに、チャーター・スクールとは何か、どのような子どもを教えることになるのか、エジソン・スクールズ社との連携のこと、そこで何が教師に求められているのか、ここでは教師は忙しくなる、といったことを明確に説明しました。面接に来た人の一部には、それほど働きたくないと思った人がいました。その人たちは本校に来ませんでした。本校に採用された教師は、全員、本校の教育方針を理解した人々です。中には年度の途中でこんなはずではなかったと退職した人もいますが、おおむね本校の教師は全員が本校の任務を理解しています。若い人が多いです。

実はこれから、ジョージア州の教育委員会に出張します。表彰を受けるためです。昨年の本校の学力テストの結果が優秀だったためです。



図表 9 教育委員会からの表彰状

4. 校舎内およびYMCA 施設見学

校長と副校長に対する面接調査の後、5年生の男女2人の生徒に校舎内を約1時間案内してもらった。2人はツアー・ガイドとして教師に指名されており、授業中にもかかわらず教室から離れて、われわれを案内した。後から副校長からうかがったことだが、これも教育の一環で、ツアー・ガイドを経験することによって、お客さんときちんとコミュニケーションができるようになって欲しい、そして、自分たちの学校のことを語ることによってセルフ・エスティーム（自己評価観）を高めて欲しい、といった願いがあるらしい。また、見学に先立って、校長から、写真撮影もビデオ撮影も自由にしてよい、そして、教室の中に入って子どもたちに話しかけてもよいとの説明を受けた。通常の学校の場合と正反対の説明であったので驚いたが、児童生徒たちが入学する際、本校がチャーター・スクールであり、しかも多方面から注目を浴びるようなすぐれた実践を行っていることから、見学者が常時訪れることを想定して、見学者の写真撮影等を許可する旨の契約書を交わしているとのことだった。

ツアー・ガイドは、われわれを、授業が行われているほとんどすべての教室に案内した。教室に入ると、どの教室でも、授業中にもかかわらず、グリーター（greeters）と呼ばれる児童生徒2人が席から離れて、われわれにあいさつをしにきた。グリーターは、この授業は何年生のどの教科の授業で、現在、何について学んでいるところなのかを説明してくれた。このグリーターも教育の一環らしい。

グリーターのみならず、授業中の教師も授業の手を止めて、あいさつしたり、説明をし

てくれたりした。そこで、授業のじゃまにならないと判断できた場面では、毎日の研修についてインタビューを試みた。

10人以上の教師に聞くことができたが、彼らは全員、研修、とくにハウス研修、学年研修などの研修会を積極的に評価していた。それをまとめると、会議のために時間がとられて忙しくなるけど、そこから得られることを考えれば、苦にならない、以前の学校なら自分ひとりで孤軍奮闘して悩んだことがあったが、この学校だったら、みんなで情報を共有しあい、支えあい、学びあうことができる、ひとりではないという気持ちは心強い、というものだった。また、1人を除き全員の教師は、このような研修システムはこの学校が初めてだと答えた。例外だったのは、以前、エジソン・スクールズ社と提携している学校に勤めていた教師で、本校が提携校では2校目であった。

校舎に隣接して YMCA の施設が建っているが、学校とはドア 1 枚でつながっている。YMCA の中は、いわゆるフィットネス施設と同じような造りになっていた。受付があり、温水プールやフィットネス運動機器が並んでいた。午前中であったが、多くの一般市民が汗を流していた。ドゥルー校の児童生徒の体育の一部は、この施設を利用して行われ、指導は YMCA のスタッフが行うことになっている。

ツアーの終わりごろ、ジュニア・アカデミーの一部の生徒とすれ違った。彼らは、プロのゴルフ選手に引率されて、学校に隣接するゴルフ・コースに出て行くところであった。

5. ハウス研修会の様子

第 3 学年～第 5 学年の **Banneker** ハウスの校内研修会 (**House Professional Development**) を見学することができた。訪問日の木曜日は、**student concerns** についての研修日であった。問題行動など、とくに注意が必要な子どもについて話し合う研修である。

教師たちは、あらかじめ、話題にしたい子どもの名前を申し出て、それをまとめた一覧が、数日前のハウス研修会で配られている。当日の研修会では、一覧の順番にしたがい、その子どもの担任が、子どもの普段の様子を報告して、出席者の間でどのように対処すればよいか話し合うことになっている。

司会はハウス主任である **Walker** 先生がつとめるが、それぞれの事例について、児童生徒支援マネージャーの **Monique Spaulding** 先生が助言を行う。いきなり、助言を加えるのではなく、まず、教師同士で対処方法等を話し合ってもらい、それから、助言を言うようにしていた。彼女の机には、問題行動に対する介入マニュアルである **Stephen B. McCarney, *Pre-Referral Intervention Manual*, Hawthorne Educational Services, 1993** が置かれていた。研修会の最中、ときどき、参加した教師や児童生徒支援マネージャーがその本を参照していた。

メモをとる教師もいれば聞いているだけの教師もいた。ノート代わりにノートパソコンを使っていた教師が2名いた。Spaulding先生は、すべての事例とそれに対する自分自身の助言の内容をノートに記録していた。

以下は、研修会の中で交わされた会話の一部である。

図表 10 校内研修の様子

教師 A「私のクラスの子ですが、以前決めたこの子の行動目標は、授業中は静かに座る、自分の手は常に膝の上に置いておく、動いてもよいと言われたとき以外は自分の席を離れない、おとなしくしていること、でした。でも、やっぱり、動き回っているのです。ふだんは問題行動を起こすような子ではありませんでしたが、ずっと以前、問題行動が出たことがあります。私はおそらく母親が戻ってきたのではないかと思うのですが。」



Spaulding「相互交渉はあるのですか？」

教師 A「いいえ」

教師 B「これに関してはよく分かりませんが、時に彼女はそのうるさい時はあるけども、本当に問題があるわけじゃないだろうと思います。だからあのプリントのようなことをしたらどうでしょうか？ 私が接することができる時間は1時間か1時間半ですけども」

Spaulding「学力面はどうですか？」

教師 A「悪くないです。ただ、じっと座ってないし、集中してすることがないんです。この子は勉強はできます。ベンチマーク・テストでは9割をとっています。リーディングでしたっけ？」

教師 B「そうです」

教師 A「でも、じっとしていないんです」

Spaulding「この子への接し方を、ちょっと変えてみたらどうでしょうか。たぶん、あなたは、この子を完全にコントロールしようと思っているのかも知れませんが、彼女は自分でできることをしたいと思っています」

教師 C「席にじっとしていなければならない時に、じっとしている時間を決めるのはど

うでしょうか。それでもし、彼女がちゃんと座れたら、シール表みたいなものにシールを貼ってあげるようにするとか」

教師 D「そうしたら、何分間じっと我慢して座っていることができたかがわかりますね」

Spaulding「それもいいかもしれませんね」

教師 E「どなたか、この子の今までの環境とか、彼女が以前通ってた学校の事とか、何らかの履歴など、ご存知の方はいらっしゃいますか？」

(首を横にふり、だれも知らない様子)

教師 A「今日、この子ったら、頭の上に赤いバケツを乗せてバランスをとってたのです。1日中」

教師 E「わー」

教師 A「私は、何度もそのバケツを取り上げたのですが、すぐ見つけてきて、頭の上に乗せて、私に取り上げて……、とにかく1日中、これなのです」

：
：
：
：
：

第2章 フルトン郡数学理科チャーター・ハイ・スクールにおける聞き取り調査

1. 調査の概要

The Fulton County Charter High School for Mathematics and Science を2002年11月12日(火)午後1時から午後3時の間、江原武一京都大学教授と共に訪問した。Lucille Phillip 校長、Leonard Vaughn 評議員への聞き取り調査および施設見学を行った。

2. 数理高校の概要

The Fulton County Charter High School for Mathematics and Science は、2001年にチャーター・スクールとして創設された。いわゆるスタート・アップ(新設型)チャーター・スクールである。地元の地域では、数理高校(Math/Science High)の通称で呼ばれる。設立目的は、生徒を学力的に鼓舞して優秀な大学に進学させることにある。他のチャーター・スクールと同様に、数理高校も標準テストの結果で好成績を収めることにより説明責任を果たすことになっている。

数理高校は、1998年に成立したジョージア州チャーター・スクール法にのっとり、2001年フルトン郡教育委員会とジョージア州教育委員会によってチャーターが認可された。運営費や施設費については、法律の定めどおり、フルトン郡の他の公立学校と同じ率の金額を生徒数に応じて配当されることになっている。



図表 11 数理高校の校舎(左) 校舎の右は化粧品店

校舎は、ショッピングエリア内にある6万平方フィートの1階建ての建物を利用している。ショッピングセンターのオーナーから譲り受けたもので、元は大型家具店であった建物である。

設立当初、生徒は第1学年のみで、約100人であった。毎年1学年ずつ拡張していく予定で、2002-2003年度は2学年の計200人の生徒が在籍している。2005年に最初の卒業生が出る予定である。全生徒数の上限は600人に設定しており、1学級あたりの生徒数の上限は24人と決めていることから明らかなように、少人数教育を基本としている。数

理高校の生徒は全員が全員の生徒のことを知っていることが望まれている。

チャーター・スクールは私立学校のように学校評議会によって運営される。評議員には、保護者、教員、教育行政官、地域住民が選出されるが、ジョージア州の法律によって過半数は生徒の保護者でなければならない。評議会は承認されたチャーターがきちんと実行されているかどうかを監視する任務を負う。

数理高校はジョージア州の公立高校でもっともレベルの高い数学、理科、コンピュータ科学のカリキュラムを提供する。通常の高校の卒業要件単位数が 24 であるのに対して、本校では、28 単位が課されている。超過分の 4 単位はすべてコンピュータ科学である。それに加え、生徒は毎日 2 コマ (1 コマ 45 分) の実験科学を学習する。すべての教科はジョージア州の定めた基準 (Quality Core Curriculum) を満たしていなければならない。さらに、無料の補習授業も受けることができる。

【校長 : Dr. Lucille A. Phillip の略歴】

イリノイ大学で数学を専攻の後、数学の高校教師となる。数学教育の学士と修士号を取得。シカゴのロヨラ大学で教育行政の博士号を取得。複数の州で教育行政に携わり、コロラド州では、新しいタイプの高校の設立に貢献する。この高校では、4 年次に高校と大学の両方の単位を取得することができる。その後、ジョージア州にある DeVry 大学のふたつのキャンパスの学長に就任。在任中 Vaughn 氏と Leibel 氏に請われ、現職につく。

【学校評議員 : Leonard Vaughn 氏の略歴】

大学で経営学を専攻、専門は金融。卒業後、金融関係に就職、複数の職を経験した後、数学の教師になる。その後、日本に渡って英会話の教師を数年間勤める。帰国後、フルトン郡審議官のアシスタントとなり、現在に至る。数理学校の創設において中心的役割を担った。

3. 校長と Leonard Vaughn 氏への聞き取り調査

(校長)

本校は昨年開設し、本年が 2 年目です。チャーター・スクールは施設を持つ必要がありません。それが地域との論争の種ともなっています。本校は、家具店を改装して校舎にしています。ご覧のとおり、通常の学校とはずいぶん見た感じが違っています。しかし、積極的な意味があります。新しいことと小さなことにより、子どもたちの創造性が育っています。新しいのでいろいろなことを生徒たちで始めなければなりません。募金活動もそうですが、子どもたちが協力していろいろなことをしています。このようにして、リーダーシップが身につけてきます。

立派な体育館はありません。通常の学校と違って格技やフェンシングなどのスポーツを

しています。場所をそれほどとらないからです。放課後のクラブ活動はありますが、学校外の施設を使わなければなりません。

ここは元は家具店で、元のままに残しているものもたくさんありますが、変えたいものもあります。生徒といっしょに壁を塗るなどをしています。

現在、第9学年と第10学年の2学年で、毎年、学年を増やしており、来年は第11学年、再来年は第12学年まで拡張します。現在は約200人の生徒が在籍しています。

この1年半の中で痛感したことは、学校規模が小さくてよかったということです。小さいので生徒といろいろなことをすることが可能となりました。なんでもかんでも選択できるわけではありませんので、何らかの代償は必要です。しかし、規模が小さいことにより、教師は生徒全員の名前を覚えていますし、生徒はコミュニティの感覚で集団生活をしています。これらは大きな学校では実現できません。

通常なら、生徒は制服を着ています。ネイビーブルーのスラックスかスカート、シャツは青か白で、学校のマークが入っています。今週は、スピリット・ウィークです。土曜日にはホーム・カミング・ダンスが予定されており、その準備をしています。生徒会が毎日違った服を着て登校したいと頼んできました。今日はフットボールの日です。本校にはフットボールのクラブはありませんが、子どもたちにとってフットボールは大きな関心事です。生徒は今日、自分の好きなチームのジャージを着て登校しています。明日は、40年代、50年代の日です。毎日テーマごとに服を変えてきます。

生徒会がいろいろと要望を持ってきます。理由を聞いて教員の間で話し合い、可能なら許可を出します。たとえば、スポーツの日なら、スポーツウェアか制服以外は着て来ないように、生徒同士で気をつけるようにさせています。リーダーシップを育てるためです。

生徒の中には、いろいろな国や地域出身の子どもがいます。おそらく、通常の学校よりも多様だと思います。ロシア、インド、南アフリカ、ベルギー、メキシコ、日本。父親が日本人の子どもがひとりいます。

現在、日本語の授業をしています。18人ぐらいの生徒が学んでいます。全生徒数が200人であることを考えるととても多いと思います。

(日本語の授業が行われていたので、まず、この授業を見学。授業にも参加した。その後、校舎を見学した。ここがもともと家具店のような大きな店舗であったことをうかがわせる間取りであった。壁やドアなどは工事の途中のような状態のものが多数あった。美術の時間に生徒がドアや壁に絵や模様を描いているらしい。生徒が掃除をすることになっており、ときどき生徒指導上の罰として掃除が科せられることもあるそうだ。校舎のあちらこちらに、空きスペース、つまり、未整備の箇所が見られた。中古のパソコンが数十台部屋の片隅に置かれていた。これから整備して授業で使うのだそうだ。ひととおりに歩いて気づいたのだが、この学校には窓がまったくない。店舗を改築したという特徴がここにも現れてい

る。窓がないと息が詰まるので、年に1度、外出してゲームやバーベキューを楽しむ行事を設けたのだそうだ。施設見学の後、会議室に戻って聞き取りを再開した)

(校長)

途中で立ち寄った進路指導室では、進学のための大学案内や入学案内等の情報を集めています。個別に生徒と面談して、どの大学に進学すればいいかの相談をしています。最近では、多くの大学がエッセイを選考の材料にしているので、エッセイの書き方の指導を10年生に対して行っています。12年生になるころには、かなりのエッセイ力が身につけているのではと期待しています。指導にあたっているのは、元弁護士です。彼女は、教師のしごととカウンセラーのしごとの両方をしています。

チャーター・スクールの特徴のひとつですが、本校の教師のバックグラウンドは、じつに多方面にわたっています。本校では教員免許の取得を義務付けていません。さまざまな経歴を持つ人々が、口コミや新聞広告で本校のことを知って応募してきました。

(学校年鑑の教師の写真を指しながら) この英語教師は、広告会社に勤めていました。その時に私と知り合い、教えてみたいと聞いていたので雇いました。彼女は、免許を持っていません。去年は1クラスだけ担当しましたが、生徒にも人気がありとても素晴らしい教師でしたので、今年から、常勤の教師になってもらいました。また、この数学教師は、ニューヨークで教師をしていてニューヨーク州の教員免許を持っていますが、ジョージア州の免許を持っていません。彼も優れた教師で、教育方法に定評があります。この保健の教師は、元スポーツセラピストです。免許を持っていましたが、それを使ったことがありませんでした。彼らはアトランタの通常の公立学校では教えたいとは思っていないようです。クラスの中の生徒数が多すぎたり、解決しなければならない問題が山積していたりするからです。本校のような別の選択肢を渴望していたようです。この言語教師は、以前、役所に勤めていました。教員免許を持っていませんが、6か国語を流暢に操ります。この教師も、元弁護士です。ハーバード出身です。弁護士に飽きて、今年から本校で教えるようになりました。

教師は多種多様です。いろいろなバックグラウンドからやってきました。いわゆる伝統的な教師は、18人中3人だけです。そのうちひとりには大学で教えた経験を持っているコンピュータ科学の教師です。彼は格別に優秀な教師です。彼の指導の下で本校の9年生が、ウェブ・チャレンジという競技で優勝しました。

大学で教えていた人間が高校で教えるには大きな壁があります。私自身も経験しました。これほど違うとは思っていませんでした。このコンピュータ科学の先生も、去年は苦労しました。大学では、学生は大人ですし、必要な質問はしてきますし、責任もとります。14歳の子どもたちは事情が違います。子どもたちは、そのような大人になるためにはどうすればいいかを学んでいる最中です。模範が必要ですし、指導が必要です。こういった理由

から、大学からやってきた人々は戸惑いがあるようです。しかし、この移行に成功すれば、知識も豊富ですし、非常にすばらしい高校教師になることができます。

われわれの目標は、ジョージア工科大学に入学できる生徒を多く輩出することです。非常に優れた大学です。最年長の生徒が受験するのはまだ2年半先ですから、まだ、彼らはピンときていないかもしれませんが、優秀な生徒ですから期待しています。

本校の教員の質を高めるひとつの方法は、さまざまな分野から優秀な人材を採用することですが、採用後も努力をしています。まず、教務担当の副校長を置いており、教師と話し合いながら、カリキュラムのことや基礎基本として求められていることなどを指導します。また、数が少ないながらも教職経験のある教師がいます。彼らは何が必要かを知っていますので、イニシアティブをとって、知識がありながらも教職経験のない教師を手助けします。ある教師は必要としていて、別の教師は必要としていません。われわれは、**mentoring**、同僚同士の **mentoring** を奨励しています。さきほどの数学の教師は教職経験が豊富ですので、化学の教師を支えています。化学の教師は知識はありますが、教えるのが初めてだからです。制度として研修を義務付けていませんが、私が、この先生を **mentor** として手助けしてくれませんかというように、お願いします。このように同僚同士の **mentoring** を奨励する方がうまくいくと思います。ある教師の授業をみんなで見学して、後で話し合うといったこともしています。

また、生徒からの意見も大切にしています。生徒は、何が教室で起こっているか知らせてくれます。その先生に援助が必要か、**mentoring** が有効に働いているか、ビデオテープや副読本などが十分か、などです。そして他の高校に行って授業を見学させてもらいなさいと助言することもありますし、それがうまくいかない場合は適切な人を呼んできたりします。

教師に対して研修の報告をしてもらうようにしています。画一的な研修は義務付けていません。教職経験豊富な教師もいれば教え始めたばかりの教師もいるので、一律の制度は時間の無駄です。それより、本校は規模が小さいので、その良さを生かして、個別に助言します。ある教師に、他の高校に行って授業見学をしたり、自分の実践してきたことを示して助言を仰いだりしてはどうでしょうかと助言して、数週間後にどうなったか教えて欲しいと言ったり、誰に聞きに行き指導案を見せればいいかを助言したりして、数週間後に結果を見ます。構造化されています。ある教師の場合は、同僚に質問をしてすぐに答えをもらったほうがいいかもしれません。規模が小さいので、こういったことが可能です。

それぞれの教科では最低限しなければならぬことが決まっていますが、それに加えて複数教科にわたったプロジェクトを行うことがあります。たとえば、保健の先生と生物学の先生が食に関して協力して教えました。数学と化学もいっしょに教えています。ライティングの授業で理科の内容を扱ったり、調べものをするときに他の教科に広がっていったりしています。繰り返しますが、規模が小さいのでこのような連携が可能です。このよう

なことを奨励していますし、頻繁に行われることを期待しています。

このような連携を行うもうひとつの理由は、宿題の量です。もし、それぞれの教科で 20 分の宿題が出たとすると、生徒は毎晩何時間も宿題をしなければなりません。教師がお互いに話し合っ、ここで大きな課題を生徒に課している、そうしたら、この課題はしばらく出さずにおこうとか、教科同士で共同して課題を作ろうとかいった連携が可能です。私たちは生徒にどんどん勉強して欲しいと思いますが、屈服させたいとは思っていません。

このように、われわれの間の中での話し合いが必要です。私の方から話し合いの時間を設定したりしませんが、お互いに時間を見つけて話し合っています。

時間割は 1 日 9 時間ですが、ひとりの教師は 1 日 5 時間か 6 時間教えます。ですから 3 時間か 4 時間の空き時間があります。もちろん、昼食をとったり、レポートを読んで成績をつけたりしなければなりません、ある程度の空き時間があります。これを利用して必要なら話し合いをすることができます。また、3 時 30 分から 4 時 15 分の時間帯は授業がまったくありません。この時間に集まって話し合いを持つことができます。昼食の時間によく集まっているみたいですね。

採用の面接の時にいつも言っています。もし、あなたがこの学校で数学だけを教えに来たというなら、この学校はあなたが勤めるべき学校ではありません。言語の教師にも同じことを言いました。ここでは教師の任務は教科指導だけではないのです、いろんな責務を担ってもらいます、昼食時間や放課後の時間にもすすんで仕事をしてもらいます、いつでも柔軟に対応して、仕事を見つけ出していくようではなくてはなりません、と言っています。

誰かにこれをしろと言われるのを待っているのではなく、自分で何か新しいことを作り出していく機会が教師に許されているのは、チャーター・スクールの制度が初めてではないかと思います。成功するかどうかはわからなくても、やってもよいと言われているのです。教師は必死になります。これは新鮮な体験です。それをありがたいと思っていると思います。

(Leonard Vaughn 氏)

もうひとつ、教師が魅力に思うと考えられるのは、生徒の質です。教えたくるような生徒です。普通の高校と比較すれば、抱え込んだ問題は少ないです。教師は自分の理想をいだいて、教えたいという希望を抱いてわが校にやってきます。官僚的な規則もほとんどありません。この近辺のほとんどの公立高校は本校の 10 倍の大きさです。だいたい 2000 人ですが、私どもは 200 人です。規模が小さければ規則の数も少なくてすみます。また、個性と創造性が尊重されます。

(校長)

生物の教師が生徒を動物園に連れて行きました。動物園の舞台裏を調べたり、動物について調べたりしました。文献で調べたことを実際の場面に応用したのです。遠距離のところにあったので公共交通機関を使いました。保護者はとても感謝していました。また、別

の生物の教師は、生徒を川に連れて行き、環境問題を学ばせました。うまくいく保障はありませんでしたが、一生懸命だということを生徒も保護者も知っています。本校は新しい学校でいろいろなことを試していきます。他の学校でもやっていることはきちんと教えるという保障をしていますが、本校ではそれを上回った内容を教えます。生徒は本校を選んでいるわけです。教師もこうった環境で教えたいと思っています。

一方、教職経験豊富な伝統的な教師がいて、新しい教え方に興味はないけれども、授業は抜群に良いといったことがあっても、それはそれでかまいません。生徒はいろいろなスタイルの教師から学びます。伝統的な教え方、創造的な教え方、いろいろあっていいと思います。

(Leonard Vaughn 氏)

学校名として、**The Fulton County Charter School for Mathematics and Science** を採用したのには、いろいろ理由があります。まず、名前を聞くなり何を目的にしているかがすぐわかるようにしたかったのです。チャーターという言葉を含みたかったのは、チャーター・スクールは特別な学校で、ジョージア州でも新しい学校だからです。チャーター・スクールの法律は 1998 年に承認されましたばかりです。結局、長ったらしい名前になりましたが、契約を教育委員会と結ぶときに、この名称は当面の名称であることがうたわれています。将来的にどこからか高額寄付の申し出があることを望んでいます。そのときは、寄付した人や団体の名前にちなんだ校名になるでしょうし、あるいは、有名な科学者の名前にするかもしれません。実は、本校のモデルとなったのは、ニューヨークにあるブロンクス科学高校です。5 人の卒業生がノーベル物理学賞を受賞しています。私といっしょに本校の開設準備を行った Leibel 氏は、高校生のとき、ブロンクス科学高校に通っていました。1998 年、彼と私は飛行機でニューヨークに行き、ブロンクス科学高校を見学して、校長にお会いしてカリキュラムなどの話をお聞きしました。

可能性としては、コカコーラ数学理科高校とか、アインシュタイン数学理科高校とか、オーサカ数学理科高校でもいいですね。何かよい名前があると思います。

(校長)

Vaughn 氏と Leibel 氏のふたりは、本校のチャーターの認可のために並々ならぬ努力をされました。そして、この校地を見つけ、設立準備をされたのです。

(Leonard Vaughn 氏)

私と Leibel 氏はボランティアとして設立に関わりました。彼は弁護士(attorney)です。

この学校を作ろうと思ったのは理想主義からです。子どもたちがよりよい教育を受けることができる学校が欲しかったのです。この学校が大きくなれば、近隣の公立学校はおろか私立学校よりもずっと優秀な学校になると思います。10 年もしないうちに、本校は南東部で 1 番の学校になっているでしょう。ライバルはバージニア州アレキサンドリアのトマス・ジェファーソン高校です。手ごわい相手です。いずれにしろ、本校は 10 年以内に優

秀校になります。

おわりに

本稿では、訪問したチャーター・スクールのうち、2校での聞き取り内容を中心に記載した。2校は、さまざまな点で違いを見せている。まず、ドゥルー校が幼稚園から第8学年（現在は第7学年まで）までの学校であるのに対し、数理高校は、第9学年から第12学年（現在は第10学年まで）までの学校であることである。また、ドゥルー校は、地域復興の一環として設立されたのに対し、数理高校は、学校教育に対して理想を抱いていた人々がその理想を実現させるために設立した学校である。ドゥルー校は、地元のコミュニティ財団からの寄付もあり、ある程度潤沢な予算をもっている。校舎も財団が負担して建設された。一方、数理高校は、現在のところ大口の寄付団体がなく、校舎はショッピングセンターにあった家具店を改築した。ドゥルー校は、連邦政府からの補助金を得るために、教員は原則としてすべて教員免許を持っている。他方、数理高校は、チャーター・スクールである特徴を生かして、教員免許を持っていなくとも熱意と教える内容の専門知識を持っている人を積極的に雇用している。ドゥルー校はエジソン・スクールズ社と提携して、カリキュラム、教育方法、教師の資質向上、経営手法等、さまざまな点においてノウハウの指導を受けているが、数理高校は、ブロンクス科学高校をモデルとしながらも、外部からのノウハウの提供はない。ただし、数理高校の校長は、大学の学長経験者であり、以前、特色ある高校を設立した経験もある。

一方、共通点も多い。2校ともマイノリティが多く居住する地域に立地している。ドゥルー校は、児童生徒の99%がアフリカ系アメリカ人であり、この地域は10年ぐらい前までは治安も悪く荒廃していた。数理高校の地域は、世界各国からの移民（ニューカマーを含む）が多く住む地域である。しかしながら、2校における教育的理想は高く、確実に学力を向上させることを学校の特徴としている。そのために、2校とも普通の公立学校に比べ、年間登校日数や1日あたりの学校時間を増やしたり（ドゥルー校）、必須単位を増やし実験を伴う理科の授業を毎日行ったり（数理高校）している。また、2校とも、スタート・アップ（新設型）チャーター・スクールであり、教員は全員、創立時に新たに雇用された。そのための面接の際、両校の教育方針や教師に期待される任務を十分に説明しており、教師は、理解と覚悟をもって指導にあたっている。そして、制度的に整備されて実施されている（ドゥルー校の場合）にしる、インフォーマルな様式にしる、教師同士の連携と校内研修が機能しており、教師は互いに切磋琢磨して資質を向上させている。

これらを踏まえた考察は最終報告等の別の機会に譲ることにして、本稿を閉じる。